

# マツ類葉さび病菌 (*Coleosporium phellodendri*) の中間宿主キハダから飛散する担子胞子の有効感染距離について

三浦 靖<sup>a)</sup>・山岡裕一<sup>b)</sup>・岡根 泉<sup>b)</sup>・鈴木浩之<sup>b)</sup>・楠 幹生<sup>a)</sup>・鐘江保忠<sup>a)</sup>・藤田 究<sup>a)</sup>

a) 病害虫防除所、b) 筑波大学生命環境系

香川県農業試験場研究報告 第72号 (2021年3月) 31-41

香川県と茨城県において、マツ類葉さび病菌 (*Coleosporium phellodendri* Komarov) の中間宿主であるキハダ周辺に自生しているマツ類における葉さび病の発生調査および、キハダ周辺に設置したマツ類の苗における葉さび病発生調査を行った。マツ類の針葉上に見られた精子器およびさび胞子堆について *C. phellodendri* を特異的に検出できるプライマーセットによって判別を行った結果、*C. phellodendri* の担子胞子の有効感染距離は 300m程度と判断した。

キーワード：マツ類，葉さび病，担子胞子，感染距離